

Nb
n-board



長野地域脱炭素実現推進協議会の取組

— 地域ぐるみでの脱炭素推進が地域と企業の価値向上を実現する —

2026年3月16日

長野地域脱炭素実現推進協議会 事務局 (n-board)

東京海上日動 長野支店
業務グループ マネージャー 田原 伸洋

令和7年度 長野地域脱炭素実現推進協議会 体制図

長野市に所在する複数の民間企業が推進事務局の役割を担い「産学官金」が連携した地域脱炭素推進のための体制にて運営を実施

2024年度 環境省・地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築支援事業での体制



・ 役員一覧

(令和7年7月時点)

| 役職名 | 氏名 | 所属 | 所属先役職 |
|-----|--------|------------------------|----------------|
| 会長 | 水野 雅義 | 長野商工会議所 | 会頭 |
| 副会長 | 中村 誠 | 株式会社 八十二銀行 | 取締役 専務執行役員 |
| 副会長 | 天野 良彦 | 国立大学 法人信州大学 | ARG機構特任教授 名誉教授 |
| 理事 | 高村 秀紀 | 国立大学法人 信州大学工学部 | 建築学科 教授 |
| 理事 | 伊藤 由郁紀 | 株式会社 守谷商会 | 代表取締役社長 |
| 理事 | 関口 泰久 | 東京海上日動火災保険株式会社 | 執行役員 長野支店長 |
| 理事 | 笠井 澄人 | 株式会社 TOSYS | 代表取締役社長 |
| 理事 | 松橋 達生 | ライフライン長野株式会社 | 代表取締役社長 |
| 理事 | 岡田 義彦 | 有限責任事業組合 ソーシャルデザインセンター | 代表 |
| 監事 | 徳武 高久 | 長野商工会議所 | 専務理事 |
| 監事 | 齋藤 明雄 | 一般社団法人 長野県環境保全協会 | 専務理事 |

※現 株式会社 八十二銀行

各関係組織の役割

- 長野市 : CO2排出量見える化補助金事業
- 長野商工会議所 : 長野商工会議所各委員会・部会への展開/各企業・団体と連携した推進役/商工会議所会員企業等の地域のステークホルダーの合意形成
- 長野地域脱炭素実現推進協議会事務局 (長野地域脱炭素推進BOARD)
 - ・株式会社守谷商会 : プロジェクトの計画実施における総括責任者、関係機関との連携調整担当/地中熱・地下水熱 (未利用熱) エネルギー情報提供
 - ・東京海上日動火災保険株式会社 : 脱炭素推進における情報提供・セミナー企画/気候変動リスク (移行リスク・物理的リスク) 定量評価支援 参画企業様との脱炭素経営・GX推進に関する対話 (エンゲージメント) 担当
 - ・株式会社TOSYS : プロジェクトにおけるDX関係担当
 - ・ライフライン長野株式会社 : 各種再生可能エネルギーのご紹介
 - ・ソーシャルデザインセンター : 情報発信・広報担当並びに長野地域脱炭素実現推進協議会担当
 - ・ホクト株式会社 : 脱炭素推進先行企業のリード・課題集約担当
- 信州大学 : 工学の分野から脱炭素の技術革新等の側面より協議会を支援
- 長野県立大学 : 社会問題の解決等の側面より協議会を支援
- 長野市地球温暖化防止活動推進センター : CO2排出量見える化補助金事業支援
- e-dash株式会社・株式会社ゼロボード : GHG排出量算定可視化クラウドサービス提供



長野地域脱炭素実現協議会が
実現したいこと

**長野の地域の価値向上
&
長野の企業の価値向上**

**若い世代に
長野に
戻ってきてほしい、
長野で
就職してほしい**



長野地域脱炭素実現推進協議会でのプロジェクトが目指すもの

(2023年8月設立時)

プロジェクトが目指すもの Goals of the project

地域脱炭素推進による長野市の価値向上 & 企業の価値向上



2023年度実証プログラム

CO2排出量の実態把握

- ✓ CO2排出量可視化クラウドサービス提供による CO2排出量可視化 / Scope 1・Scope 2対象 (最大50社)
- ✓ 脱炭素経営に関するセミナー開催・普及啓発・情報提供
- ✓ 長野市地域由来の「地中熱」「地下水熱」利用可能性のご紹介



2024年度以降の展開イメージ

CO2排出量削減目標設定 具体的削減へのフェイズ移行

- ✓ Scope 3 CO2排出量実態把握へのチャレンジ検討
- ✓ 長野市地域由来の地下水熱・地中熱技術等による CO2排出量削減検討



CO2を排出しない 脱炭素・低炭素への イノベーション創出 ビジネスモデル転換

CO2排出量可視化

CO₂



企業価値向上



CO2排出量可視化クラウドサービスについては
以下の2社の企業のサービスよりご選択を頂いております。


- CO2排出量実態把握対象 : Scope 1 ・ Scope 2



環境省・地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築事業に“採択”される

- 2024年7月1日に長野市は「環境省・地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築事業」において全国10都市の一つとして採択されました。
- 2025年5月19日に公表された **環境省「地域ぐるみでの支援体制構築ガイドブック（令和6年度版）～地域で脱炭素経営を推進する意義～」**では、“民間企業主導の組織の特性が組織機動力や課題解決の方法に影響（長野市）”として紹介されております。





支援組織

事例(令和6年度事業の支援地域)
長野県 長野市

4-3

長野市では、民間企業主導の組織の特性が、組織の機動力や課題解決の方法に影響

長野市では、民間有志企業がコンソーシアムを組成し、行政や商工会議所がバックアップする形で、地域の中堅・中小企業に対し、脱炭素経営に向けた課題解決支援を実施しました。今年度の取り組みを通じて、民間企業主導の組織の特性として、①制約の少ない意思決定体制、②モチベーションの高いメンバーの集まりやすさ、③各社が参画・抛出しリソースを自由に決定できる柔軟性、の3点が挙げられ、組織の機動力や課題解決の方向性に影響を与えました。

組織図

- 民間有志企業のコンソーシアムで構成
- 中堅・中小企業
- 脱炭素を通じた経営課題解決モデル企業構築支援
- 脱炭素×発信に関する人事採用責任者向けセミナー

民間主体による特性

相対的に制約の少ない意思決定体制

- 年間予算スケジュールの影響を受けず、意思決定における制約が少ない

モチベーションの高いメンバーが集まりやすい

- 民間企業は市内の多数の企業の中から意欲が高い有志による組織となるため（行政の場合、まず担当組織ありきのため）

各社が参画・抛出しリソースを自由に決定できる

- 基本は“同じ方向性を向いた企業の集まり”
- 注力してリソースを割くことも、リソースを絞ることも、最終的には個社判断で、コンソーシアムへの出入りは自由

本事例での状況

高いスピード感での事業推進を実現

- 脱炭素×発信に関する人事採用責任者向けセミナーでは、実施決定から2カ月後に初回が開催

複数人での活発な意見交換が実現

- 大半のメンバーがリーダーシップをもって自らの意見を会議の場で発信し、合議での意思決定を実現

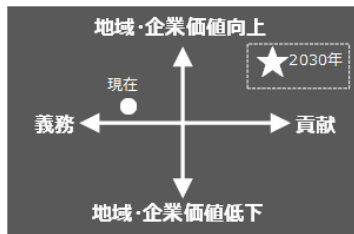
自社の事業方針とマッチするほど推進力向上や人員補強が可能

- 一方、事業方針のマッチ度に応じて事業者の参画度合いは限定的にならざるを得ない状況も散見

運営調整支援: 長野市生活環境部
商工会議所での発信機会提供: 長野商工会議所

長野市の地域脱炭素推進「価値創造ストーリー」

「環境を良くして、収益も上がる」GXへ



- 商品ごとのCO2排出量算出にチャレンジしている
- ガソリン車でも削減可能な「アクセルトレーニング」に企業・市民がチャレンジしている
- 自社と協力会社（提携農家含む）にてカーボンプレジットを創出している

「協議会」
 ・ “事業化”されたコンテンツ・ソリューションの提供

「長野市との産学官金連携構築」
 ・ 長野市全体でのScope 1・Scope2の算出および削減計画の策定に貢献
 ・ GX・脱炭素をテーマにしたイノベーション創出機会の提供

- 学校教育や親子イベントでも協議会の取り組みが取り上げられている
- エンカル消費・サーキュラーエコミー貢献商品の販売マーケットが拡大している
- スポーツチームのレプリカユニフォームがサーキュラーエコミーに貢献する素材で製造されており、販売に「わがまちカーボンプレジットNAGANO」が利用されている

地域と企業の価値向上の実現

魅力あるまち・災害に強いまち・若者が挑戦できるまち

「協議会」
 ・ 会員数を増やす（2026年度末 100社）
 ・ GX推進モデル企業を増やす

「長野市との産学官金連携構築」
 ・ 環境部/経済産業振興部との丁寧な対話による行政ならではの役割の共有
 ・ 入札時の加点項目化、補助金用途の拡大など行政ならではの「ルールメイキング」相談
 ・ 協議会との包括連携等による協議会の「公式化」検討

2029-2030 義務から貢献への行動変容

守る・豊かになる・元気になる



住む人 来る人
ワクワクする街
実現

2027-2028 GX共創・協業増加

集まる・繋ぐ・新たに創る



脱炭素に貢献する
イノベーション創出

2025-2026 協議会認知度向上

知る・始める・勧める



GX×「防災」、GX×「ヘルスケア」
などその他の社会課題解決にも貢献

協力会社・提携企業を巻き込んだ
“共感”に基づくストーリー性のある
低炭素・脱炭素製品・商品・サービスの増加

具体的な
CO2排出量削減行動

CO2排出量可視化
「知る」「測る」「減らす」「発信する」

「脱炭素推進」は

= 地球温暖化対策、気候変動問題対策、CO₂削減

だけではない

「脱炭素推進」は

= イノベーション創出、組織活性化、
社会課題解決、働きやすい職場、
働き甲斐のある仕事、ウェルビーイング、
成長性の実現、ビジネスモデル変革、
収益性の向上 などの
グリーントランスフォーメーション

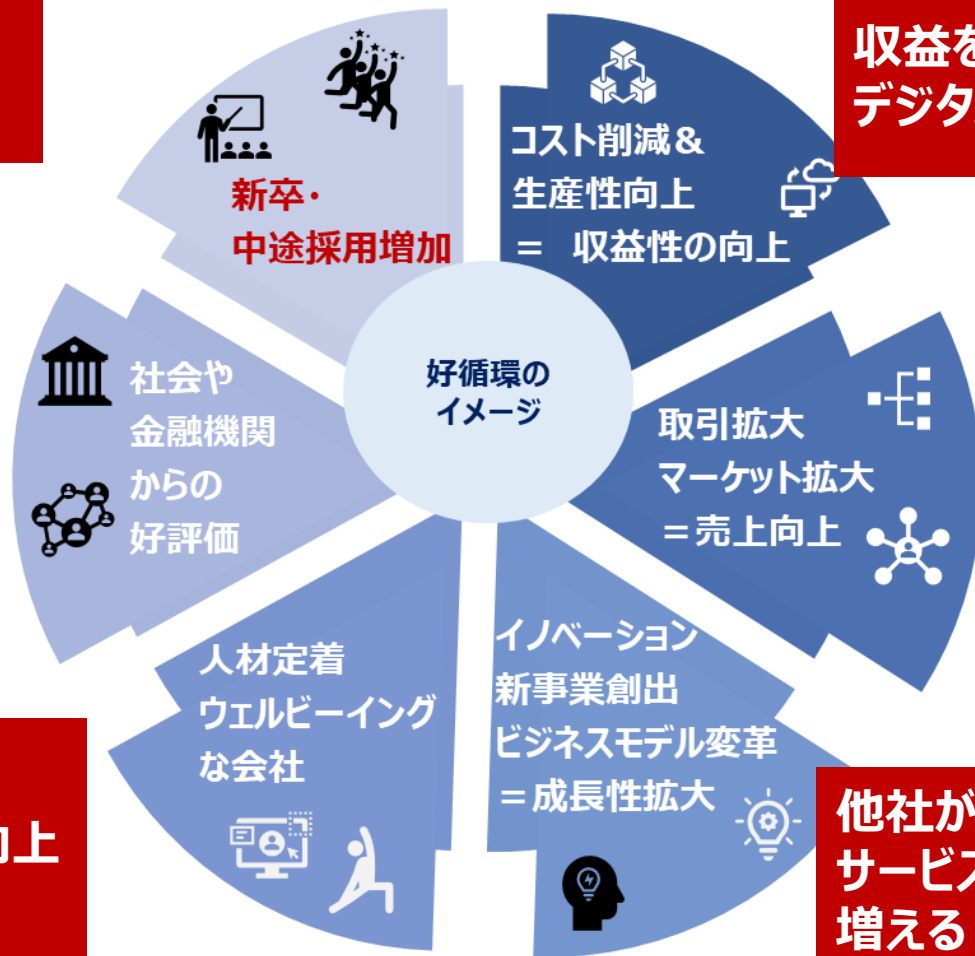
なぜ企業が脱炭素推進に取り組むのか

—企業価値を最大化する脱炭素経営—

若者が働いてみたいと思える会社
仲間になりたいと思える会社

地域貢献だけにはとどまらない
応援される会社

働きやすい職場
社員のモチベーション向上
強い組織



収益を生んでくれる施策
デジタル活用

自社の価値が
伝わりやすい

他社が自社の技術や
サービスを求める機会が
増える

「経営戦略」の脱炭素化と「事業活動」の脱炭素化の考え方

企業の脱炭素経営推進には、「経営戦略の脱炭素化」と「事業活動の脱炭素化」の2つの軸での推進が重要となります。
 カーボンニュートラルがゴールではなく、脱炭素経営によって企業価値を向上していくことが目的となります。

・地域企業における取組イメージ

経営戦略の脱炭素化

イノベーション創出・ビジネスモデル変革
 マーケット拡大が起こる領域

| | | |
|--|----------|---|
| 自 社 ビ ジ ネ ス へ の 影 響 | チャンス | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 新産業創出 ✓ カーボンニュートラル産業への参入 ✓ 販路拡大 |
| | リスク | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業再構築 ✓ 事業多角化 |
| | 大きな影響がない | |

事業活動の脱炭素化

しなければならない領域

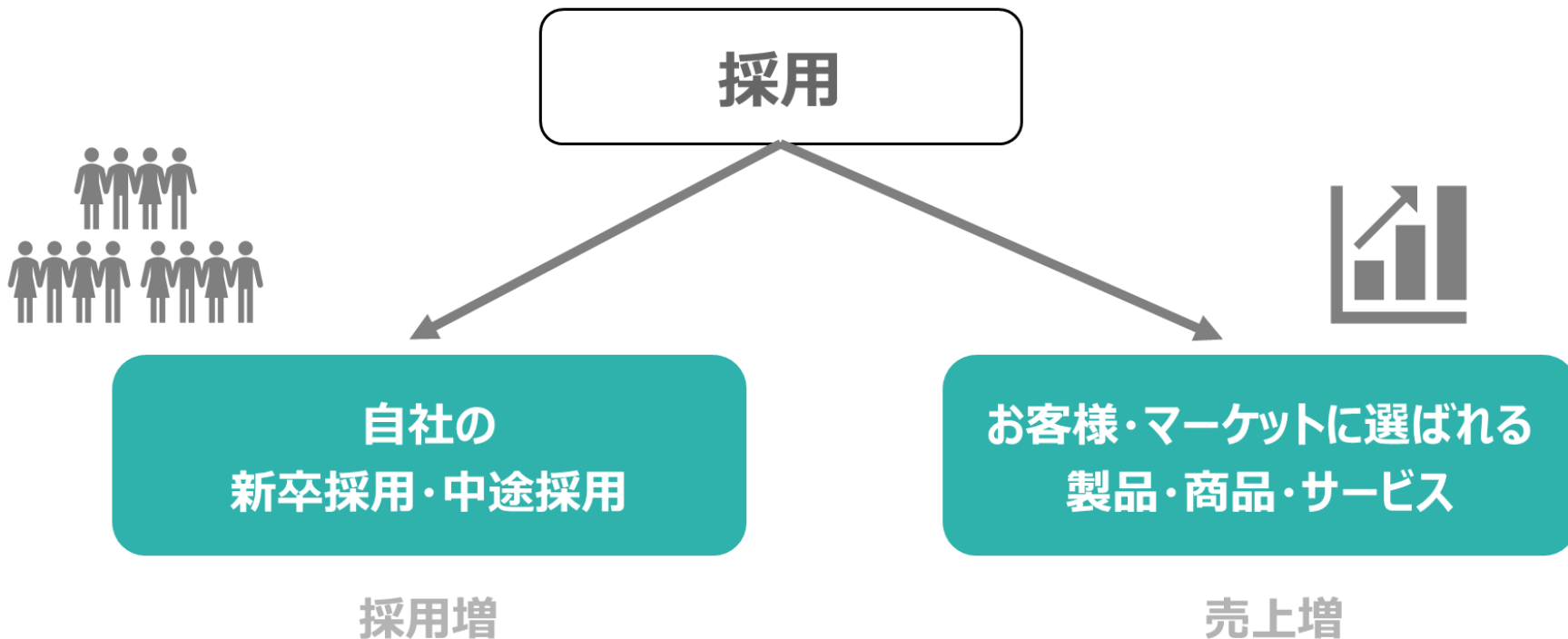
| | | |
|---|--------------------|---|
| GHG (CO ₂) 排出量の 把握 | Scope 1 Scope 2 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 省エネ ✓ 燃料転換・電化 ✓ 熱利用一部転換 ✓ 再エネ導入 ✓ クレジット活用 |
| | Scope 3 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 低炭素製品・サービス供給 ✓ LCA・カーボンフットプリント ✓ 廃棄物の資源化 |

出典：カーボンニュートラルと地域企業の対応 <事業環境の変化と取組の方向性> 令和5年12月 関東経済産業局 より 東京海上日動にて整理 ・「熱利用への一部転換」を追加
https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/ene_koho/ondanka/data/kantocn_guidance.pdf

「経営戦略」としての脱炭素化支援

脱炭素経営視点での人材採用・人材育成が会社を強くする

「採用」の観点から脱炭素経営を考える



(2024年度) 経営戦略としての「脱炭素推進」が 採用に好影響をもたらす企業価値向上セミナー・ワークショップ開催

人事・採用部門/責任者限定 専門プログラム

経営戦略としての「脱炭素推進」が
採用に好影響をもたらす
企業価値向上セミナー・ワークショップ



採用活動に好影響をもたらすために
「3回」のセミナー・ワークショップにて実践的な脱炭素経営採用をお伝え致します

Day1

カーボンニュートラルの基本を
学ぶ



- ✓ 脱炭素経営の重要性
カーボンニュートラルレッスン
- ✓ 脱炭素経営推進による
採用好事例企業紹介
- ✓ 自社に脱炭素貢献の
ソリューションがなくとも
脱炭素貢献が可能な
サキュラーエコミー

Day2

学生の「教育」「価値観」を
知る



- ✓ 現代の学生が考える
「良い企業」「良い地域」
- ✓ 「学生」から学ぶ
ゼロカーボン・地域貢献
- ✓ 「先生」から学ぶ
ゼロカーボン・地域貢献

Day3

自社の強みを採用活動に
繋げる



- ✓ 学生と共に考える
「魅力的な企業」の
発信方法
- ✓ 学生とともに考える
「新規事業の可能性」
- ✓ 脱炭素経営をベースとした
採用活動・採用計画への
ビルトイン

日時

10月16日(水)
14:00~16:30

11月8日(金)
14:00~16:30

12月11日(水)
14:00~16:30

場所

長野市芸術館アクトスペース

主催 : 長野市 ・ 長野地域脱炭素実現推進協議会

学生が考える「良い企業」「良い地域」
を通じて “教育” “価値観” を知ること
で
脱炭素経営推進による **採用力強化** を
考える機会としました。

内容

登壇者・主な参加者

Day1

- カーボンニュートラルの基礎
- 脱炭素を採用に結び付けた好事例

- 協議会・BCG
- 雲南市・雪ヶ谷化学工業

Day2

- 学生アンケートの紹介
- 脱炭素×就職先のパネルディスカッション

- BCG
- 大学生 (信州大学、
長野県立大学、東京大学院)

Day3

- 脱炭素×発信のグループディスカッション

- 大学生
(信州大学、長野県立大学、
長野高専)



(2025年度) 5回に亘る人事採用責任者向けGXセミナー・ワークショップを開催

- 昨年度の人事採用責任者向けGXセミナー・ワークショップをさらにバージョンアップ。
- 昨年度までの“脱炭素経営が部門を超えて浸透しない・従業員に浸透しない”という課題に対する解決策の一つとして、今年度は若手社員も参加してのセミナー・ワークショップを開催。

2025年度 「人事採用責任者向け脱炭素経営セミナー」

～脱炭素経営による企業価値向上と地域価値向上を目指して～

参加無料

昨年度長野市は私たち協議会と協働で環境省「地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」に選定され、「人事採用責任者向け脱炭素経営セミナー」を開催し、今年2月開催の最終報告をしましたところ、「就職先条件に脱炭素活動が含まれる」など数多くの反響をいただきました。そして今年度も引き続き6回ほど開催いたしますので、持続可能な企業としての要件である「脱炭素」を考え行動する機会として捉えていただき、本セミナーへのご参加いただける企業を募集いたします。多くのご参加をお待ちしています。

第1回勉強会

今までの求人の正しい？

第1回「少子化社会の採用 オンライン無料勉強会」 採用マーケティングプログラム

7/8に東京商工リサーチが発表した2025年上半年(1月～6月)の全国求件数(負債額1,000万円以上)は、前年同月比1.2%増の4900件と高水準で推移しており、うち人手不足関連が要因で増加している。従業員確保が難しい状況が顕著な企業は増加する可能性があるとしています。少子化等により求人確保が上乗せになり、中堅・中小企業に人材を確保することがどんどん難しくなっています。求職者は有名企業に集中し優秀な人材が中堅・中小企業に流れにくい状況です。会社が選ばれる存在にならなければ、持続可能な企業となるのは不可能です。ではどうするか、その一つの解が、採用活動にも戦略的マーケティング思考で対応しようということで、オンラインにて勉強会を開催いたします。

日時：令和7年9月9日(火)、11日(木)、12日(金) 14:00～15:30

オンラインにて無料勉強会を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。
3日とも内容が異なりますので都合の良い日をお選びください。

- ◆ 中堅・中小企業の採用課題の現状は？、これは経営の問題？
- ◆ なぜ3年以内の離職率が新入生卒34.9%、新入生卒38.4%と高いのか？
- ◆ 何をどう対応するのか？、「解決策は？」
- ◆ 採用をマーケティング思考で戦略的に考える勉強会

申込・参加方法 申込締切日：9月5日(月) 15:00までにお申し込みください

右記、お申込フォーム(二次元バーコード)よりお申し込みください。
後ほど、お申し込みいただいたメールにオンライン情報をお送りいたします。

主催：長野地域脱炭素実現推進協議会
共催：長野市・長野市地球温暖化防止活動推進センター・長野商工会議所

お問い合わせ
長野地域脱炭素実現推進協議会事務局 電話：026-480-0068 メール：n.board@moriya-c.co.jp

2025年度「人事採用責任者向け脱炭素経営セミナー」

2回目以降の予定

※各回とも参加企業の要請により、タイトル・内容が変更になる場合がございます。ご了承ください

| | |
|--|---|
| <p>第2回：「選ばれた企業」になるためのオンライン勉強会</p> <p>参加条件：長野地域脱炭素実現推進協議会会員 テーマ：「学生が選択する3要素とその必須対応とは」 日時：2025年9月30日(火) 14:00-15:30 2025年10月2日(木) 14:00-15:30 ※会内ではお申し込みいただけます。都合の良い日をお選びください。</p> <p>内容： ・学生が選択する3要素の必須対応ワークショップ 長野地域脱炭素実現推進協議会事務局</p> | <p>第3回：「脱炭素経営の基礎知識」リアル・セミナー</p> <p>参加条件：長野市工業会所属企業 テーマ：「企業が目指すべき脱炭素経営の基礎知識」 日時：2025年10月16日(木) 14:00-16:00 場所：長野市芸術館 アクトスペース</p> <p>内容： ・脱炭素経営の重要性とカーボンニュートラルの基礎知識 ・脱炭素経営が企業価値と採用に与える影響</p> |
| <p>第4回：「魅力ある企業づくりと魅力的な広報の思考法」WS</p> <p>参加条件：長野地域脱炭素実現推進協議会会員「CO2排出量見直し」実施企業 テーマ：「魅力ある企業、その効果的な「広報」の仕方」 日時：2025年11月13日(木) 14:00-16:00 場所：長野市芸術館 アクトスペース</p> <p>内容： ・データから見る若者の就職観と企業選びのポイント ・採用をマーケティング思考勉強会か</p> | <p>第5回：若手社員と人事担当者のディスカッションワークショップ</p> <p>参加条件：CO2排出量見直し「実施企業」 テーマ：「この会社に就職を決めた理由と、入社後に感じたこと」 日時：2025年12月11日(木) 14:00-16:00 場所：長野市芸術館 アクトスペース</p> <p>内容： ・若手社員による発表 ・グループディスカッション</p> |
| <p>第6回：「脱炭素を事業につなげる」オンライン勉強会</p> <p>参加条件：CO2排出量見直し「実施企業」 テーマ：「脱炭素を第2の事業の柱に」 日時：2025年11月16日(金) 14:00-15:30</p> <p>内容： ・「自社の強み」からの思考 ・「脱炭素・社会課題解決」と事業を結びつける</p> | <p>その他の活動</p> <p>参加条件：長野地域脱炭素実現推進協議会会員「CO2排出量見直し」実施企業 ・北信濃「脱炭素経営宣言」の活動報告 一覧 ・ランカーボン・イベント開催など 長野地域脱炭素経営企業を支援する活動を随時実行していきます。</p> |

主催：長野地域脱炭素実現推進協議会
共催：長野市・長野市地球温暖化防止活動推進センター・長野商工会議所

お問い合わせ
長野地域脱炭素実現推進協議会事務局 電話：026-480-0068 メール：n.board@moriya-c.co.jp



2026年1月21日
長野地域脱炭素実現推進協議会

2025年度 人事採用責任者向け脱炭素経営セミナー 第5回 ワークショップ開催レポート

「採用に好影響」をもたらす「魅力ある企業づくり」と「魅力的な情報発信」

日時：2025年12月12日(木) 14:15-16:15
場所：長野市芸術館 3F アクトスペース
参加企業数(参加者数)：10社/16人

サステナブル・脱炭素・サークユーエコノミーの取り組みを「企業価値」として発信することが
共感する人材を惹きつけ、「採用力を高める」時代が来ています

【第5回】採用に好影響をもたらす「魅力ある企業づくり」と「魅力的な情報発信」
～人事採用から考える持続可能な企業としての情報発信～

(1) 本日の目的説明：長野地域脱炭素実現推進協議会事務局 岡田 純彦
(2) 「魅力ある企業」の成功事例共有：株式会社コマテ 総務部 部長 原山 純一様
(3) 現代の学生の声を反映し、サークユーエコノミーも採用のテーマとして取り入れたことで新卒採用に好影響の成果
(4) 「魅力ある企業」の発信戦略グループディスカッションワークショップ
① 採用における成功要因と採用責任者・若手社員それぞれの視点で考える
② 採用責任者・若手社員が社に考える自社の魅力・価値が「伝わる」採用メッセージ広報戦略

※懇話会終了後の人事採用責任者向けセミナーワークショップも先着7名で参加しました。

「脱炭素」×「サークユーエコノミー」×「脱炭素活性化」×「チャレンジできる企業文化」の発展により
「採用力が飛躍的に向上」
「魅力ある企業」の成功事例共有～株式会社コマテ 総務部 部長 原山 純一様
脱炭素・サークユーエコノミーを採用のテーマとして取り入れたことで2024年度・2025年度採用内から、2026年度採用7名を実現した株式会社コマテ 原山純一様ごとの内容との成功のポイントを講演頂きました。この企業にも同じ興味深い内容であり、参加者は熱心にメモを取っていました。

Nb 長野地域脱炭素実現推進 BOARD

人事採用責任者と若手社員参加によって改めて認識できた「自社ならではの価値」

- ・ セミナー・ワークショップでは、人事採用責任者同士・若手社員同士および人事採用責任者 & 若手社員でのディスカッションを実施。
- ・ それぞれの思考行動特性傾向を共有するとともにお互いの話し合いから“自社ならではの価値”を改めてともに考える機会を創った。

人事採用責任者と若手社員の思考・行動の違い



脱炭素に向けたグループディスカッション②

【テーマ】脱炭素経営推進によって持続可能な企業になるために自社で実現できることは？

～「もし自分が社長だったら、どうしたら脱炭素化ができるか？」を考えてみよう！～

【テーマ】脱炭素経営推進によって持続可能な企業になるために自社で実現できることは？

後半パートでは、「自分が未来の社長・経営者であつたら」という視点で自社の脱炭素行動を実現するための課題と解決策をテーマにディスカッションを行いました。若手社員からは脱炭素への取組を「コスト」ではなく「未来への投資」と考え、積極的な解決策が多く出されました。採用担当者からは、仕組みで行動を変える（「知らないうちに脱炭素になる」設計）ための具体的なアイデアが多く出されました。

人事採用責任者と若手社員において“共通しているポイント”

| | |
|----------|-------------------|
| 課題認識 | 脱炭素は必要／現状は不十分 |
| 成功に必要な要素 | トップのリーダーシップ |
| 解決方向性 | 意識と仕組みの両輪が必要 |
| 企業価値の理解 | 脱炭素＝ブランド・採用力向上に影響 |

人事採用責任者と若手社員において“異なるポイント”

| 項目 | 人事採用責任者 | 若手社員 |
|---------------|---|---|
| 思考スタンスの違い | 現実性・制度・運用 コスト・負荷・制度整合性 慎重・段階的 | 未来志向・挑戦・変化 企業価値・将来リット 前向き・スピード重視 |
| 注目する焦点の違い | 組織文化・仕組み・DX 全社最適・制度整合 社内制度・経営の意向 | 現場課題・心理的安全性 現場の体験・声の反映 日々の業務感覚・現場の声 |
| 方向性・アプローチの違い | 制度設計・仕組み化 運用可能か／全社に適用できるか | コミュニケーション改善 納得感・意見が反映されるか |
| 脱炭素に関する捉え方の違い | 必要だが負担も伴う 説明責任・合意形成 合理性・整合性・業務上の必要性 | 未来への投資として当然 スピード・挑戦・柔軟性 成長・共感・社会的価値 |

*上記は、「人事採用責任者」と「若手社員」の違いについて示したものであり、どちらの意見が正しいという主旨ではなく、違いについて簡略的にまとめたものです。

GXを価値として伝えたことが新卒採用に好影響を与えた企業の事例【株式会社コヤマ様】

2024年度のセミナー・ワークショップでご紹介させて頂いた“現代の学生が大切にしている価値観”や“学生からの生の声”によって
サーキュラーエコノミーの観点から自社の事業の価値を伝える「採用ツール」を作成

➡ **脱炭素推進をテーマとしたアプローチが新卒採用に好影響を与えたきっかけの一つとなった**



株式会社コヤマ さま（長野市川中島町原1111）

“バイオブリケット”“スキレット”製造のストーリーから
 サーキュラーエコノミーの貢献をお伝えされている。

チャレンジ
 できる会社

×

組織活性化

×

サーキュラー
 エコノミー

“新しいことへのチャレンジが出来る会社”であり、
 “チャレンジしたい人材”を求めている、
 という採用における学生へのメッセージも込められているとのこと。

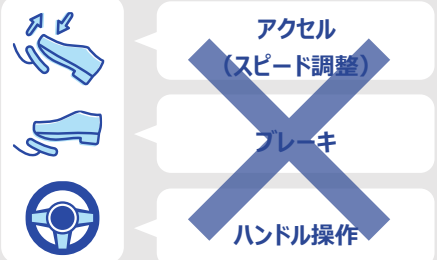
- 過去2か年新卒採用0名・インターンシップ参加者0名 ➡ 新卒採用内定者7名・インターンシップ参加者11名を実現
- 協議会セミナーでの「サーキュラーエコノミー」「現代の学生の価値観」「参加した学生からの生の声」がきっかけ
- 自社の魅力を再確認する機会となり、若手社員中心でプロジェクトを創り上げたことで組織活性化にも繋がっている

「事業活動」としての脱炭素化支援

CO2排出量削減に繋がる「アクセルトレーニング」

「発進時、時速20キロに到達するまで5秒かける」というアクセル操作を習慣化に導く

走行中




アクセル
(スピード調整)

ブレーキ

ハンドル操作

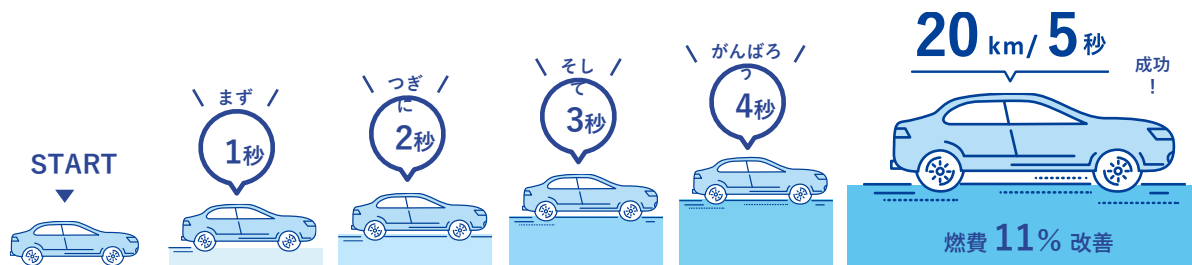
走行中のため、
同時に複数の
状況判断が必要
(トレーニング困難)

停車



アクセル
(発進のみ)

停車しているので、
発進動作に
集中できる
(トレーニング可能)



「アクセルトレーニング」にて実現できること

アクセルトレーニングはアクセル操作を改善、習慣化することで、**CO2排出量の削減を実現できます。**

その結果、ガソリン消費量の抑制による燃費向上 = ガソリン代削減さらには**自動車事故の削減**に繋げることができます。

ゼロカーボンシティ実現への貢献、地域社会全体の意識向上・環境保全に繋げることが出来ます。

CO2排出量削減



CO2排出量が低減され、会社全体としての脱炭素の取り組みの第一歩になります。地域内でのプレゼンスアップやSCOPE3対策にもつなげることができます。

ガソリン費用の削減



アクセルトレーニングに取り組むことで、**約11%の燃費改善効果**が見込まれ、ガソリン費用の削減に繋がります。車両を多く保有する企業にとって大きなコスト削減に繋がります。

自動車事故の削減



ドライバーの運転習慣が変わることで、自動車事故の発生件数や事故による損害額が少なくなります。修理費用や自動車保険料等も少なくなるため、企業としての費用負担も少なくなります。

多額の投資をせずに具体的な脱炭素の取り組みを開始できるメリット

アクセルトレーニングは **多額の投資をせずにCO2を削減できる体験型の脱炭素施策**です。

発進時のアクセル操作のみを集中的にトレーニングし、踏み込み方を習慣化します。

習慣化される体験型の取り組みであるため、「行動変容」が促されます。

車載器GX700NCを自動車のOBDコネクタへ接続するだけでご利用頂けます。



POINT 1

極めてシンプル 誰でもできる

特別な知識や技術は不要。
運転経験など社員の属性
に関わらず**全員が実践可
能**なトレーニングです。

POINT 2

成果が見える 点数化

成果が数値として表れるの
で確かな手応えが得られま
す。アクセル操作の点数が
上がると連動して**燃費も改
善**します。

POINT 3

持続性が高い

体に覚え込ませることにより
「**習慣化**」を強力に促進し
ます。一度身につくと後戻り
することなく成果を持続する
ことができます。

POINT 4

車間距離が空く

アクセルトレーニングにより
急発進が減り**自然と車間
距離が空き**、余裕が生ま
れ「考える実践トレーニング」
に繋がります。

長野地域脱炭素実現推進協議会 提供コンテンツ

長野地域脱炭素協議会では、脱炭素・GXを通じた地域の価値および企業の価値向上のため以下のコンテンツ・ソリューションをご用意しております。（検討中の内容も含む）

環境省重点対策加速化事業 2025年度申請は不採択でありましたが、引き続き、協議会事務局として採択を目指し、長野市とのコラボレーションを継続してまいります。



長野市内での「GX推進循環」リード (将来的な協議会事務局の事業化)

- 脱炭素に貢献する事業の価値を生みだす = 事業の価値の可視化
「GX」×「レジリエンス（防災・BCP）」、「GX」×「ヘルスケア」、
「GX」×「組織活性化（働き甲斐のある職場・女性の活躍推進）」etc.
その他の社会課題解決への貢献
- 脱炭素通じた価値の発信
協議会会員の宣伝・広告業をサポート。会員企業の発信力を高める活動を行う。



CO2排出量可視化 分析サポート

長野市温室効果ガス排出量見える化・削減支援事業補助金交付支援事業連携

- CO2排出量可視化による発信メリット紹介
- CO2排出量分析ポイントの紹介
- 協議会会員全体でのデータ集計および地域全体でのカーボンニュートラル実現への仮説策定
(データ連携ポータルを設置できた場合)



GXエンゲージメント ディスカッション モデル企業輩出

- 経営課題解決のための脱炭素経営推進の経営層の方々とのディスカッション（会員企業様へ個別訪問）
- CO2排出量削減ソリューション紹介
- 企業の脱炭素経営を浸透させるための役員・従業員向け「GXセミナー」開催のご提案（無料）



人事採用セミナー

- 経営戦略としての「脱炭素推進」が採用に好影響をもたらす企業価値向上セミナー・ワークショップ開催
- 新卒社員と人事採用担当者をセットにしたセミナー・ワークショップも検討
- 現代の大学生の価値観を知り、採用増&売上UPにつなげる



環境省認定制度「GX検定」 を割引提供



- GX検定は環境省認定制度です。検定合格者は「環境省認定制度脱炭素アドバイザー」を名乗ることが可能となります。
- <https://share.hsforms.com/1A9fvIuLpRRWtfbqHTu1jbw2mtef>
- 脱炭素社会、サステナビリティ経営時代の共通リテラシーとして身につけておくべき内容を網羅的に抑え、GXの体系的な基礎知識を習得できます。

GX検定 割引での申込先



「わがまちカーボンクレジット NAGANO」展開

協議会会員企業が参加できる体験会・説明会&カーボンクレジット講習会を検討

- 長野県由来のカーボンクレジットを活用した地域経済活性化および脱炭素推進を目的とした地域還元モデル。
- 商品・製品・サービスにデジタルデータとしてのカーボンクレジットを付帯し、販売することが可能。販売プロモーションとしての利用が可能です。
- 消費者は「わがまちカーボンクレジットNAGANO」を企業に寄付することで、企業からのお礼として消費者が割引や返礼品などの提供を受けられる仕組みとなっています。



講習会実施

- SBT（パリ協定が求める水準と整合した企業が設定する温室効果ガス削減目標）CFP（カーボンフットプリント/商品の原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでの商品・製品ごとのCO2排出量）、建築物ホールライフカーボンセミナー J-CAT（建築物ホールライフカーボン算定ツール/Japan Carbon Assessment Tool for Building Lifecycle・国土交通省は2028年実施を目指す）等の講習会
- Scope1削減の具体策実行（地域全体でのScope3削減）
アクセルトレーニング = 自動車発進時、「時速20kmまでに5秒かける」取組の拡大
「アクセルトレーニング実施中」のステッカー等を作成し普及促進に繋げることを検討

長野での地域脱炭素推進が

企業の価値と地域の価値向上に繋がり

住む人 来る人 ワクワクする街 長野を実現します



お客様や社会の
“いつも”を支え、
“いざ”をお守りする。



東京海上日動